

■ 伶人町遺跡出土の緑釉単彩陶器 ■

伶人町（れいじんちょう）遺跡は、四天王寺の西側に展開する遺跡です。

今回の展示とかかわって重要なのは、奈良時代後半から平安時代前期にかけての成果です。

とりわけ、製作年代が8世紀末～9世紀前半のごく短期間に限られ、出土量も少なく、都や大寺院などに出土が限られる緑釉単彩陶器（りよくゆうたんさいとうぎ）が見つまっている点に注目する必要があります。

また、墨書された緑釉単彩陶器はさらに重要で、欠けているため記された意味はわからないものの、日本で本例のみが知られています。

784年に都が長岡京（ながおかきょう）に遷（うつ）されると、難波は急速に衰退していきませんが、四天王寺と難波津（なにわづ）周辺は都市的な様相を保ちます。

大阪市内では当遺跡と難波津周辺でのみ緑釉単彩陶器が出土していますが、この2つの地域が都市的な様相を保ったことを象徴する資料といえるでしょう。